

どうしてって？

牧  
草  
泉

どうしてって？  
一番前の席にいたんだ  
彼女の瞳って  
生き生きしていて  
真珠のように光り輝いていたよ  
どうしてって？  
研究室で  
原稿の読み合わせをしたんだ  
彼女の声って知性的で  
すごく透明感があったよ  
どうしてって？  
梅園の茶店で  
向かい合っていたんだ  
彼女って

聖母マリアの  
ようにやさし  
かったよ  
どうしてつて  
？  
わからな  
い  
間の  
残さ  
れた  
んだ  
ひとり、  
取り  
出が  
ある  
から  
寂  
しく  
ない  
んだ

# 別 れ

あいつが亡くなった？  
あいつが？

元氣そうだな年賀状をもらったのに  
喪中のはがきが空に舞い上がる

うそだ！うそ！うそだ！  
喜怒哀楽をぶつけ合ったあいつが！

喧嘩して別れて

また寄り添ったあいつと俺

何度も何度も繰り返した

祖母が亡くなった時

おばあちゃんか耳元で語り掛けていた

「私もすぐ行くから待っててね」と

でも、それは遠いお伽の国の物語だった

今、それが目の前に

もう、あいつはいない

あのおばあちゃんがうらやましい

俺はどうしたらいいんだ？

置いてけぼりを食った俺  
独り  
六畳の居間で涙する

# 過去へ

あの時、  
俺は「迎えに来るから」

と言えなかつた

「あんたつて臆病なのね」

あいつは、笑みを浮かべて呟いたっけ

「私という女は、愛を信じてなら

いつまでも待てるのよ」

誘いかけるように言う女の表情に

ふと陰りが

そう、

目の前に巨大なアフリカ地溝が

あいつは、どんな人生を送ったのか？

ふと、

知りたい思いが稲妻のように走る

突然、あいつの顔が

荒野を孤独に彷徨している俺を

笑っている  
「私を見捨てた報いなよ」という声が  
もしや、幻聴？  
いや、確かにあいつの声だった  
「俺って臆病者だったんだ」  
夜の街を彷徨しながら、ふと呟く  
孤独がどつと押し寄せる